

2024年度 ウェルビーイング産業創出促進事業 行政課題プログラム テーマ一覧

	テーマ	担当課
01 高齢者の 社会参加促進	1-1. 高齢者のデジタルを活用した社会参加 高齢者（65歳以上）の健康づくりや孤立防止のため、デジタル機器やeスポーツなどを活用し、これまで社会との接点が少なかった方が社会参加を継続的に行うためのソリューションを募集します。	高齢企画課
02 相談対応の効 率化及び質の 向上	2-1. DV・虐待相談対応の効率化及び質の向上 新しく任用されたDV・虐待に対応する相談員が、一人で相談対応ができるようになるためには相当の時間を要します。AI等による相談対応のシミュレーションシステム等、相談員の業務効率化やスキルアップにつながる技術開発の提案を募集します。	太白区 家庭健康課
03 若者・働く世代 の健康促進	3-1. 食習慣改善・食環境整備を後押しするサービス 学生や働く世代が、主体的に摂取している栄養状態を視覚化し、地域の小売店等を利用して食習慣の改善に向けた行動変容を行う食習慣改善・食環境の整備を後押しするための提案を募集します。	健康政策課
	3-2. 睡眠状態を客観的に把握し、行動変容を後押しするサービス 学生や働く世代が、主体的に自身の睡眠習慣を視覚化し、睡眠状態の改善を後押しするための提案を募集します。	

【01 高齢者の社会参加促進】

1-1. 高齢者のデジタルを活用した社会参加

高齢者（65歳以上）の健康づくりや孤立防止のため、デジタル機器やeスポーツなどを活用し、これまで社会との接点が少なかった方が社会参加を継続的に行うためのソリューションを募集します。

<背景>

- 高齢化が進む中、高齢者の健康づくりや孤立防止のために、社会参加の重要性が高まっている。
- しかし、社会参加に関心がない方や様々な社会参加の方法を知らない方、また、自らに適した手段の存在を知らず、それを選べない方がいる。定年退職や生活環境の変化（家族構成や運動時間など）が生じるため、個々人とその時の状況に適した社会参加の機会を提供したい。
- 一方で、仙台市では昨年度よりeスポーツを活用した高齢者の健康促進・外出機会創出の事業を実施している。eスポーツに限らず、デジタル機器やアプリケーション等の活用によって、社会参加の場への関心を高めたり、様々な参加手法の提案ができるようになるのではないかと期待している。

<課題/実現したいこと>

- 高齢者が、具体的にどのような活動ができるのかを知ってもらい、自身の健康状態や生活環境に適した形で継続的に社会参加できるようにしたい。また、高齢になって新しいことを始めることに抵抗を感じる方もいるため、早期の取り組みを促したい。
- 例えば、老人福祉センター、つどいの家への参加者を増やすべくeスポーツなどデジタル機器やアプリケーション等の活用などを通して、より広い選択肢の提供や関心度の向上に繋がられるようにしたい。

【02 相談対応の効率化及び質の向上】

2-1. DV・虐待相談対応の効率化及び質の向上

新しく任用されたDV・虐待に対応する相談員が、一人で相談対応ができるようになるためには相当の時間を要します。AI等による相談対応のシミュレーションシステム等、相談員の業務効率化やスキルアップにつながる技術開発の提案を募集します

<背景>

- 区の家庭相談員は、家庭児童相談業務（養育相談、虐待等）、ひとり親家庭相談業務（生活支援、福祉貸付・償還等）及び婦人相談業務（離婚、家庭問題、DV等）を担当しているが、下記のとおり、相談件数の増加や相談内容の複雑化に伴う課題がある。
 - ①家庭相談員の組織的なOJTや研修体系等の整備が不十分であり、本人の経験値や自己研鑽に多くを委ねている現状がある。
 - ②電話及び対面による相談の記録作成（1件15分～20分）に過大な負担が生じており、時間外勤務の要因となっている。
 - ③相談記録は依然として手書きが多く、関係者間での情報共有や対応方針の迅速な決定に課題がある。

<課題/実現したいこと>

- ①について、生成AI等を利用し、相談記録のテキスト化・要約化を相談者に接する前に壁打ち相手として相談対応のシミュレーションを行うシステム等、相談員の業務効率化やスキルアップにつながる仕組みがあると良い。
- 例えば、②及び③の背景を踏まえ、電話や対面での相談記録をリアルタイムでテキスト化・要約する音声認識システム等を利用したものであることが望ましい。

【03 若者・働く世代の健康促進】

3-1.食習慣改善・食環境整備を後押しするサービス

学生や働く世代が、主体的に摂取している栄養状態を視覚化し、地域の小売店等を利用して食習慣の改善に向けた行動変容を行う食習慣改善・食環境の整備を後押しするための提案を募集します。

<背景>

- 仙台市では「いきいき市民健康プラン」を策定し適切な食習慣の定着に向けた取組を行っているが、令和3年度の健康意識等調査によると、「栄養バランスの良い食事の実践者」の割合がH28年度調査から減少しており、特に30代では29.3%から23.8%に減少している。
- 栄養バランスの偏りによる健康への影響は、特に若い世代は実感が薄く、生活習慣予防のための実践に結びつきづらい。このことから、栄養バランスの偏りや不適切な量の摂取が、どのように健康へ影響（良い・悪い両面）するかを可視化できることで、行動変容につなげたい。
- 栄養バランスの良い惣菜や食品を販売している店舗では、それぞれの店舗において宣伝は行っているとみられるものの、消費者側は行きやすい・行きたい店舗を見つけることができていないことが、栄養バランスの良い食事を実践できていない要因の一つになっていると考えられる。

<課題/実現したいこと>

- 栄養バランスの偏りによる健康への影響は、特に若い世代は実感が薄く、生活習慣予防のための実践に結び付きづらいため、栄養バランスの偏りや不適切な量の摂取が、どのように健康へ影響（良い・悪い両面）するかを可視化できることで、地域の小売店等を利用した食習慣の改善に向けた行動変容につなげたい。
- 例えば、アプリ上のアバターにユーザーの栄養状態が反映され、食習慣と健康への影響（疾患リスク・医療費）などを可視化することで行動変容を促したい。

【03 若者・働く世代の健康促進】

3-2. 睡眠状態を客観的に把握し、行動変容を後押しするサービス

学生や働く世代が、主体的に自身の睡眠習慣を視覚化し、睡眠状態の改善を後押しするための提案を募集します。

<背景>

- 仙台市では「いきいき市民健康プラン」を策定し、生活習慣の改善による健康状態の改善を目標としているが、令和3年度の健康意識等調査によると、「睡眠による休養を十分にとれていない人」の割合が30代～50歳代では4割以上にのぼっている。
- 厚生労働省では現在「健康づくりのための睡眠ガイド2023」を策定しており、アメリカで行われた調査では働き盛りの世代について、睡眠時間が5時間半未満で「睡眠休養感」が低いほど死亡リスクが高まったという結果が紹介されている。

<課題/実現したいこと>

- 睡眠状態の不足が自身の健康へどのように影響（疾患リスク・医療費など）するかを可視化することで、行動変容につなげたい。
- 睡眠単体ではなく、睡眠と運動量、栄養状況、血圧など、睡眠と●●という二つ以上の要素でレコメンドしてくれる製品・サービスが望ましい。